

(様式1) 実践事例

学校名	伊達郡川俣町立福田小学校	校長名	渡邊 浩人		
住所	伊達郡川俣町大字羽田字山ノ坊15	児童生徒数	57	学級数	6
TEL	024-566-2808	ホームページアドレス	なし		

個に応じた指導法の工夫と深い学びをうながす生活科・総合の取組

1 少人数指導の計画等

- (1) T・Tの活用や学習形態の工夫により、一人一人の学びに応じたきめ細かい対応を行い、基礎学力の定着を図る。
- (2) 生活科・総合的な学習の時間の指導において、探究の過程を重視した単元構想を工夫し、協同的な学習の展開を工夫していくことで、互いに高め合う喜びを味わわせ、主体的に学ぼうとする意欲を高める。

2 実践の概要

(1) 算数科における個に応じた指導法の工夫

① 指導体制の工夫 ～T・Tによる指導～

(第5学年「分数と小数、整数の関係を調べよう」)

〈○指導のねらい・実際〉

- 学習における個人差が大きい実態に対応して、一人一人に合った指導を行い、学習内容の理解を図る。
 - ・ つまづいている児童に対して、1対1でつまづきに合った個別指導を行い、学習内容が確実に理解できるようにしている。
 - ・ 作業等が早い児童にはT1が、それ以外の児童にはT2が指導に当たる等の役割分担を明確にし、個々の実態に対応できるようにして取り組んでいる。
 - ・ T2は加配の教員であるため、特に上学年を担当し、時間割を調整することによりT・T指導を継続して実施してきた。



② 学習形態の工夫

～自力解決の段階におけるペア学習を通じた学び合う活動の工夫～ (第1学年「たしざん」)

- 一斉指導では、友達の説明を聞いて学習内容が理解できるようにする。
 - ・ 児童同士で、計算の仕方を説明し合うことで、自分の考えを深めたり、友達の考えを理解したりできるようにしている。
 - ・ 自分の考えを友達に分かりやすく説明しようと、話し方の工夫だけでなく、図や半具体物なども活用する児童の姿が見られている。



(2) 現職教育(生活科・総合的な学習の時間)における個に応じた指導法の工夫

① 探究の過程を重視した単元開発と展開の工夫

(第5学年「福田のいいところふやし隊プロジェクト」)



○ 調査体験や見学、活動のねらいをもとに、自分の意見を持ち、意欲的に話し合うことができるようにする。

- ・ 地域に住む人々からの聞き取り調査や見学を通して、自分の体験をもとに話し合いをした。
- ・ 児童の実態に合った単元構想を工夫することにより、福田に住む一人として、「神社・寺」を自慢したいという発言が見られ、「コードF」を参考に、ゲーム化してより多くの人に参加してもらうことで地域に発信していこうという計画に結び付いた。

② 「なかよし指数」など尺度を工夫して思考をうながす取組例

(第4学年福田のおじいちゃん・おばあちゃんおもてなし大作戦)

○ お年寄りとの関わり方を数値化した「仲よし指数」を使うことにより、自分は今どの段階なのか、どこまで高まらせたのかを日常的に、また、客観的に振り返ることができた。

これにより、どの児童も自分自身の学びの振り返りができるようになるとともに、他の児童との思いの違同が明らかとなり相手意識をもって次の活動へとつなげていくことができた。



○ 単元を構想する上で、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の4つの段階を軸として単元計画に位置付け、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくような学習の進め方を行うことで、児童が自分たちの力で学習を進められる基礎を培うことができた。

3 実践の成果と課題

- 学級の在籍が10名前後という少人数のよさを生かし、一人一人の実態を丁寧に把握することで、それに合った指導計画や単元構想、指導形態・体制などの指導法を教師が工夫することができた。それにより、児童は、豊富な言語活動を通して学習内容の理解を深めることができた。
- 教師や友達が自分の側にいるという学習環境ができていたため、児童は学習に対して不安に思うことも少なくなり、理解できるまで取り組もうという意欲につながった。
- 本校の課題であった児童の活用力は、平成26年度より続けている現職教育でのこれらの取組により高まり、他教科における学習へも波及してきている実感を得ており、全国学力・学習状況テストの結果にも着実に反映してきていると見ている。
- 児童の生活環境や学習環境から、自分を表現することが苦手とする児童がいる。児童が自分の考えを言葉できちんと伝え、話し合う活動を通して、教師が子どもたちの思いに寄り添い、学ぶ楽しさを味わうことができるような学習体験や手立てをさらに構築していく必要がある。